

2015 10/27

No.2005

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



サッカー J1・横浜Mの中沢佑二選手(37)が17日の第2ステージ第14節で、J1 通算500試合出場を達成した。プロ17年目の快挙を仲間も胴上げで祝った。



視点・点描	3
ジャズ喫茶復活 夢は続く	
政治	4
憲法の枠超えた安保法制 自民党は政治の劣化防ぐ気概を	
社会	6
熾烈だった韓国プロパガンダ 「明治」世界遺産めぐる攻防	
社会	8
東大、アジア首位から陥落 世界大学ランキングの衝撃	
くらし2015	10
意外と多い大人のADHD	
広告珍談	12
広告はたのしい② クスリ・クソウバイ?	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

#### ◇横浜定例講演会

2015年11月9日(月)

13時30分～15時

ロイヤルホールヨコハマ3階「シンフォニー」

講師は新潟県立大学教授、

青山学院大学名誉教授の

袴田 茂樹氏

演題は「動乱の世界情勢と日露関係」

#### ◇神奈川政経懇話会

##### 設立50周年記念特別講演会

2015年11月30日(月)

14時～15時30分

横浜情報文化センター6階「情文ホール」

講師は女優の岩下志麻さん。

司会は共同通信社編集委員の立花珠樹さん

演題は「私の女優人生・岩下志麻が語る演技と出会い」

#### ◇横浜定例講演会・交流会

2015年12月11日(金)

横浜ベイシェラトンホテル& Towers

▽講演会

11時～12時30分、4階「浜風」

演題は「2016年の動向を読む」。

講師は共同通信社政治部長・小淵敏郎氏、同経済部長・東

隆行氏、同企画委員(国際関係)・沢井俊光氏、神奈川新聞

社取締役論説主幹・林義亮氏

演題は「2016年の動向を読む」

▽交流会

12時40分～14時、4階「清流」

# 視点 点描



## ジャズ喫茶復活 夢は続く

岩手県陸前高田市のジャズ喫茶「h.イマジン」復活は少し遠のいた。店の再開を期して建てた宿泊施設が、復興のかさ上げ工事で撤去されるためだ。店主の富山勝敏さん(74)の写真は10月いつぱいで施設を閉める。定年後の人生を襲った津波、ままならぬ復興。夢破れる出来事の連続である。

富山さんはいま、津波に流された店の跡地でボランティア向けに

バンガロー7棟の「レインボーサイ」(虹の宿)を営む。高さ10メートルほどにかさ上げされた旧商店街跡地が目の前に迫る。新しい市街地造成工事が、自身の土地に及ぶことになった。解体は11月、かさ上げは12月にも始まる。1棟を使つて小さなジャズ喫茶をとの、ささやかな願いはかなわなかった。

2011年3月に被災のニュースが伝わると、横浜市民を中心に



全国から約6500枚のレコードやCDが届いた。アンプやスピーカーもあった。隣の大船渡市でいったんは飯店舗を開いたものの、被災地での経営は思わしくなく店を閉じた。ただ3000枚ほどを手元に残し復活を見据える。

都内のホテルマンなどを経て定年を迎え、61歳から妻子と離れ一人岩手で暮らす。大好きなジャズ喫茶を開いては失った。だが「人生を翻弄ほんろうされている」とは思わない。「これが運命、めぐりあい。出

直せということ。また新しいことに挑戦できる」と、くじけない。「ジャズを流し、コーヒーを飲んでうっとりできる空間は代えがたい幸せ。わたしからジャズを取ったら何も残らない」。

富山さんには新たな商業地の一角が提供される。ただし時期は17年春以降とはつきりせず、場所も分からない。復活はいつになるのか。津波前から「シャッター通り商店街」の疲弊した陸前高田での開店、加えて被災地という課題山積の再スタートとなる。店を流されたほかの店主たちが戻ってくるのか。心配事は数限りない。

それでも頭の中には店の図面がある。ロフト付きの平屋で、ジャズカフェ兼バッグパッカー向けのゲストハウス。夢はまだ続く。

(神奈川新聞社横須賀支社長

小野 明男)

# クスリ・クソウバイ?

1879(明治12)年1月25日、大阪で朝日新聞の創刊号がでた。発行を前に、宣伝するチラシを配付した。内容をいまふうに書く

と「大阪・江戸堀南通に朝日新聞社を創立。記事にはひらがなでルビをつけ、子どもにも読めるような新聞を発行する」と。創刊する3日前から、大阪の各新聞にこんな広告をだした。

「朝日新聞 定価1枚1銭 1カ月前金18銭、本月25日より発行いたします。ご愛顧のほどひとえにおねがいたします」と。競争相手になる新聞の広告を、おらが新聞に載せてやるおほかさ。すばらしい時代であった。

載せた新聞の年間部数は、《大坂日報》2299部。《大阪新聞》499部。《大坂新報》120部。

ほかに《大坂でつち新聞》がある。今は丁稚でも、がんばってやがて大きな新聞になるぞという題名である。朝日も、その初心にあやかっただのかな。

朝日新聞の創刊号は無料配布で、大きさは現在の新聞のほぼ3分の1。タテ32センチ、ヨコ23センチの4ページ。1面は《朝日新聞》の題字が

右書きで、横組み。3段組で記事のみ。2面も3段組の記事と、なぜか、いなり寿し屋のイラスト。3面も3段組で記事と、ムスメに



きものを着つける母親のイラスト。この図は4面である。3段組で2段と3段は「広告」である。クスリクソウバイ(薬九層倍)というほど、クスリはもうかると昔からいわれていた。だから2段分の広告欄はすべて、クスリである。品名だけ列記しよう。

「官許 奇妙水」「官許 強壯水」「動物勢力丸」「梅毒妙薬ひへしつ根切葉」(なんのことか分からな

いが、こわそう)、「奇妙散」「官許 奇心丸」「官許 快通丸」「万

病感心丸」「万徳丸」「小児肝源園」「順栄湯」と。官許とは政府が許

可したものの、キキメあるのかね。わが家人はクスリでひどい目に

あった。内科医で4種、外科医で5種、内科専門医で6種、合計15種のクスリ漬け。ひところ、廃人のようになった。

薬剤師は医者の方箋通りに「販売」して、知らん顔。ある医師がついに見え！して、4種だけになり、もとどおり元気になった。

3カ所の薬剤師はどうして気づかないのか。どんどんクスリを出せば、売上げも増える、利益はあがる。どうやら薬

剤師は人命をまもる専門職ではなく、医者の実実な下僕らしい。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(図)1879(明治12)年1月25日、大阪で発刊された朝日新聞創刊号の4面